

地域を守る

消防団

〜守りたい人がいる
守りたいまちがある〜

大雨などによる水害、各地で頻発する火災、近い将来起こると予想される東海地震…。消防団が出動しなければならない事態は数多くあり、その活動に対する地域の期待はますます高くなってきています。

今回の特集では、日々厳しい訓練に励む消防団活動について紹介します。消防団員の「私たちのまちは、私たちが守る」という熱い思いに触れてみてください。

☎ 防災課防災係消防団担当（袋井消防本部警防課内） ☎ 44-6092



地域を守る

消防団



「消防団員確保に向けて」

袋井市消防団 団長
秋田和宣さん(西区)

市民の皆さんには、日ごろより私ども消防団に格別のご理解とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

消防団は、いつ起こるか分からない火災や自然災害から住民の財産・生命を守ることを使命とし、生業の傍ら日々訓練に励んでいます。昨今は地球温暖化による異常気象の影響などにより、自然災害の発生する状況が変化しています。今年の夏、甚大な被害を及ぼしたゲリラ豪雨などのように発生する場所、時間などが予測し難いため、常に予断を許しません。そのような状況下では、災害時に即戦力となるべく訓練された消防団員の力が不可欠です。

しかし、昭和29年に全国で200万人以上いた消防団員も、現在では90万人以下に減少しています。袋井市においても例外ではありません。団員の確保には困難をきたしており、状況は年を追うごとに厳しくなっています。原因として、近年における生活スタイルや就業体系の変化に伴い、地域と住民の関係が希薄になっていることが考えられます。生活していくうえで、地域と密接なつながりを持つ消防団という組織に触れる機会がないため、ボランティアで行われる消防団活動への理解を得ることが難しくなっていると思います。一人でも多くの団員を確保するために消防団の組織や活動について、もっと市民の皆さんに知っていただく必要があります。今回の消防団特集を通して消防団のことを多くの人に知ってもらうとともに、知っている人にはより深く知ってもらいたいと思います。

また、団員確保に向けた具体策として、市と協力し、消防団員確保対策検討会を今年度より立ち上げました。消防団員確保対策検討会は、自治会連合会長や公民館長、消防団経験者などで構成されています。委員の意見を参考に団員を確保していきたいと考えています。

消防団を取り巻く環境は厳しくなっていますが、消防団は地域になくってはならない存在です。消防団員としての責任と誇りを胸にこれからもより一層の努力をし、地域の皆さんと共に歩んでいきたいと思えます。今後とも袋井市消防団への地域の皆さんのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

消防団を知っていますか

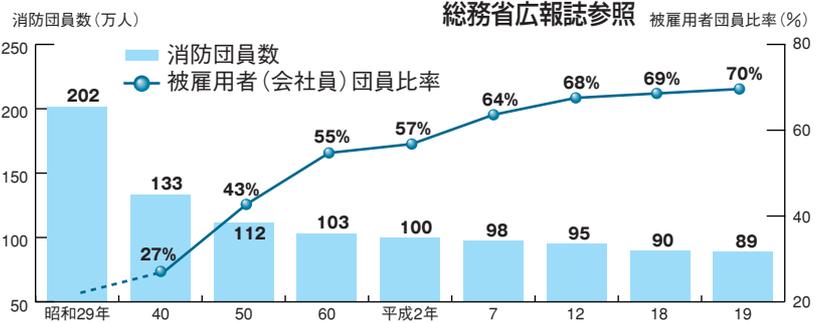
災害現場などで消防活動にあたる人員として、一般的には消防職員と消防団員がいます。

消防職員とは常勤の地方公務員で、消防本部に勤務する職員や消防署に交代で勤務する職員のことをいいます。

一方、消防団員とは、普段はそれぞれの職業を持ちながらも、「私たちのまちは私たちが守る」という精神に基づき、地域の安全と安心を守るために活動している人をいいます。

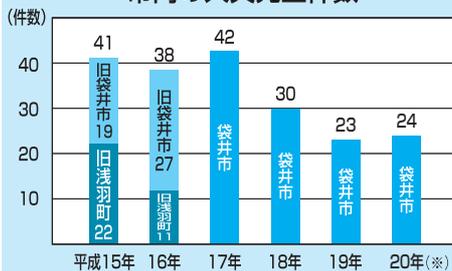
現在、市内には地区ごとに16の分団があり、各地区に住んでいる20代〜30代の人たちが構成されています。団員は、それぞれ仕事の合間をぬって消防技術の習得や災害対応するための消防団活動と両立させている特別職の地方公務員です。地元などで火災が発生すると消防署から無線やサイレン、携帯電話のメールで連絡を受け、いち早く現場に駆け付け、消防署と協力して消火活動にあたります。

消防団の現状 (全国の消防団員数と被雇用者団員比率の推移)



袋井市でも、消防団員の数は年々減少傾向にあり、団員確保が難しくなっています。被雇用者団員の割合も90.4%と全国平均を上回っています。

市内の火災発生件数



(※)平成20年は、1月〜9月までの件数です。

袋井市森町広域行政組合「消防年報19年版」参照